

## 南部町など連携 介護人材育成モデル

# タイから新たに2人



前列、工藤町長を挟んでブンカセーム・メーサーさん(左)とサマーコム・アッチャラさん(右)

## 八学大・短大に入学

南部町と八戸学院大学・同短期大学部、民間福祉施設等の産官学連携による国際介護人材確保・育成の「青森なんぶモデル」留学生として、同大・短大に今春、新たにタイから2人が入学した。4日、町役場で工藤祐直町長と懇談し、2人は「いろいろなことにチャレンジしたい」と抱負を述べた。同町に住み、2年間で介護福祉士の国家資格取得と、日本語能力試験でN2（日常の場面で使われる日本語理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解できるレベル）の合格を目指す。

（珍田秀樹）

町役場を訪問したのはブンカセーム・メーサーさん(33)と、サマーコム・アッチャラさん(同・ペー)さん(30)で、同短大に通い、高齢者施設「八幡のゆ」でアルバイトをする。メーサーさんは日本語を勉強するため仙台に1年、ペーさんは岐阜県で3年間、技能実習生として働き、仙台で1年間日本語を学んだという。同大・短大には今年、タイから5人、インドネシアから4人が入学、八戸市にも居住している。2人が在籍する介護福祉学科の柏葉英美学科長、同

学科の国際交流・留学生支援担当の三浦文恵教授、八幡のゆを運営する社会福祉法人恵生会の工藤恵一理事長、同施設の工藤愛施設長らが同席。工藤町長は「住宅など留学生を受け入れる準備はできており、町内のバスは無料で利用できる。タイの後輩も町に来てくれ

るよう、架け橋的な役割も期待している」と話した。メーサーさんは「介護福祉士の勉強に加え、文化、おまつり、料理など日本についていろいろ学びたい」、ペーさんは「勉強はもちろん、スキーやスノーボードにもチャレンジしたい」と話した。同町には昨年5月、青森

なんぶモデル第1号留学生として、ベトナムからレ・ティ・ゴック・ディエップさんが来日している。